SAMIT 予稿タイトル

山田 太郎 *1, 鈴木 次郎 *2

*¹ 筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻
*² (株) 医用画像研究所

キーワード: テンプレート, フォーマット, フォント, フォントサイズ, マージン(5 語以内)

1. はじめに

SAMITでは1ページの予稿から発表を受け付けています。ページ数は最大で2ページまでとします。参加登録時にショート・ロングオーラル発表の選択をしていただきますが、1ページ予稿の場合はショートオーラル発表を、2ページの場合はロングオーラル発表を選択してください。予稿原稿については1年後に予稿集として電子データ(PDF)をウェブサイト上で公開する予定です。

本シンポジウムでは若手の交流を開催目的のひとつに擁しており、初期検討段階の研究に関する発表も受け付けています.提案した手法に関する定量評価の結果が既存手法の定量評価値を上回っていないとしても、取り組んだ際の発想について発表していただいて全く問題ありません. ちょっと面白いアイデアが浮かんだので実験してみたけれどうまくいかなかった, しかしうまくいかなかった原因を特定できた, といった内容での発表も OK です.また, 扱う手法が最新手法である必要もありません.

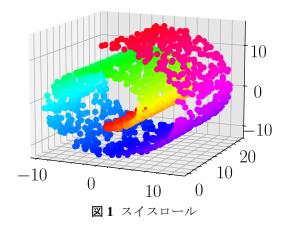
pLaTeX で執筆される方はこのフォーマットに従って原稿を作成してください. 原稿執筆にあたり, 書式は変更しないでください (フォントの書体・大きさ, ページサイズ, 段組, 文字領域, 行間, 余白など). タイトル, 著者, そして著者の所属を 1 ページ目に書いてください. 要旨は 400 文字以内, キーワードは 1 語以上 5 語以内での執筆をお願いします.

2. 本文の書き方

本文は原則として 2 段組でお書きください. また、本テンプレートは A4 サイズです. ファイルのサイズは 10M バイトを上限とします.

1) フォントについて

執筆に用いるフォントは原則としてこのテンプレートに倣ってください.フォントに関するルールは以下のようになっています. 和文は見出しのみ MS ゴシック (太字), その他は MS 明朝とします. 英文の場合は全て Times New Roman としています.



フォントのサイズ (1 ポイント=1/72 インチ):

タイトル 12 ポイント

著者名 11 ポイント

要旨9ポイント

本文9ポイント

2) 図表について

図表の番号は図 1, 表 1 などとし, キャプションは和文でお願いします. 図表中の説明は和文と英文のどちらでも可とします (原稿単位で統一してください). 表は table 環境と tabular 環境を併用し, キャプションをつけるようにして下さい.

デジタルカメラやスキャナから図を取り込む場合の解像度の目安は、だいたい 300dpi です. もちろん、図の大きさにもよりますので、文字などが十分判別できるように、適宜行ってください. 図はカラーでも結構です. 図 2 のように 2 段にまたがるような大きな図表を挿入してもらっても構いません.

3) 句読点について

句読点は必ず「,」「.」に統一してください.「、」「。」を用いたり両者が混在したりしている原稿が見受けられますので注意し

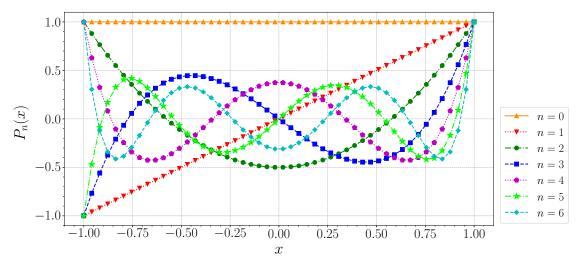


図 2 ルジャンドル多項式. 値域 [-1,1] に対して n=0,1,2,3,4,5 の場合.

てください.

4) ハイパーリンクの利用について

このテンプレートファイルは基本的に冊子体の抄録集を想定し て作成されています. しかし, URL を記載することで読者の理解 を深めるならば、その利用も可とします. ただし、あくまでも、永 続的に存在するであろう URL に留めてください.

5) 数式について

数式は原則として TeX の標準機能と AMS (American Mathematical Society, 米国数学会)の AMS-LaTeX を利用して下さい. 番号付き数式を記述するためには equation 環境

$$p(y|\mathbf{x}) = \frac{p(y)}{p(\mathbf{x})}p(\mathbf{x}|y),\tag{1}$$

もしくは eqnarray 環境

$$\int_{a}^{b} g(x)dF(x) = \lim_{\epsilon \downarrow 0} \int_{[a+\epsilon,b]} g(x)dF(x), \qquad (2)$$
$$= \int_{(a,b]} g(x)dF(x), \qquad (3)$$

$$= \int_{(a,b]} g(x)dF(x), \tag{3}$$

を利用してください、スカラ、ベクトル、行列、テンソル、関数、 汎関数, 演算子, パラメータ, ハイパーパラメータ等をどのよう な記号で表記するかはルールを定めていません. 理解に支障がな い一般に使われている表記を用いる、もしくは適当な説明・定義 を加えた上での執筆をお願いします.

6) 参考文献について

文献は文中で引用された順に番号を付けることとし、スクウェ アブラケットで,[1] [2],[3] もしくは[1-3] などと記載してくだ

著者名は3名までとし、以下はet al. または他、としてくださ い. 雑誌はこのテンプレートの例の[1,2]に倣ってください. 著

書は和・英文ともに、著書名、書名、巻数(版数)、発行社名、発 行, 地名, 発行年(西暦), 頁, の順に記載し, 分担執筆の場合, 分担者が明記してある場合はこれを記載してください. このテン プレートの例の[3,4]に倣ってください.

3. まとめ

テンプレートにしたがって原稿作成をお願い致します. 投稿時 のファイルフォーマットは PDF ファイルとしてください.

謝辞 〔例〕研究遂行にあたり貴重なご助言を賜った田中栄一日 本医用画像工学大学名誉教授に深謝いたします. 本研究は JSPS 科研費 JP12345678 の助成を受けたものです.

利益相反の有無

著者グループが各々の本務とする機関・団体以外の企業あるいは 営利団体との利益相反関係がある場合には、ここに利益相反関係 を明示してください. なお, 公開の基準については, 「利益相反の 取り扱いに関する規定」第3条(COI自己申告の基準)を参照の こと.

http://www.jamit.jp/outline/agreement/rieki.html

〔例〕本研究の一部は(株)MIT 製薬の研究助成金を得て実施 された. 無い場合は、「なし」と記述してください.

対文

- [1] 田中栄一:解析的 3 次元再構成. Med Imag Tech 18: 33-39, 2000
- [2] Ogawa K, Harada Y, Ichihara T et al: A practical method for position dependent Compton-scatter correction in single photon emission CT. IEEE Trans Med Imag 10: 408-412, 1991
- [3] 岸上義彦,橋本良夫:画像解析と細胞診. 辻内順平編:応用画像解 析. 共立出版, 東京, 1981, pp198-210
- Muehllehner G: Scintillation Camera Collimators. In: Nucelman S, Patton DD eds Imaging for Medicine Vol. 1. Plenum Press, New York & London 1980, pp77-87